

ねばならず不便を感じているので、電子コピーを図書室内に設置して欲しいこと、また、毎月どのような新刊書が購入されたのかわからないので、学生の目に立ちやすい所にも掲示して欲しいこと、学生の不満、購入して欲しい本についても考慮して欲しいこと等があげられる。最後に、教育学部図書室が、文学部と合併され、人文科学図書館になるかも知れないらしいが、冊数の増加に対して好ましく思うが、利用システムについて、現状以下の条件になれば困るものと杞憂する。

## 議 会

### 「新しい大学図書館像特別委員会」を 国立大学図書館協議会に設置

昨年6月に開催された国立大学図書館協議会総会において、大学紛争を契機として、従来の大学図書館のあり方を根本的に検討し直し、今後の向うべき方向を打出す必要があるという意見が、九州地区から強く主張された。この意見は全員の賛同を得、その結果「新しい大学図書館像特別委員会」が設けられることになった。

一方、国立大学協会も、図書館特別委員会を設けて、大学図書館のあり方について検討をはじめていた。そのため「新しい大学図書館像特別委員会」は、国大協の特別委員会の検討成果をふまえてスタートする形となり、本年4月末の常務理事会で委員会を決め、第1回委員会は、7月13日名古屋大学で開催された。そして、新しい大学図書館像の問題に、①理念の点から、②中・小規模の大学図書館の立場からは相互協力を中心とした面から、③機械化の点からの3点から取り組むことになり、第1の問題は北大、第2の問題は山形大、第3の問題は京大がそれぞれ中心になって検討することになった。

機械化の問題については、8月6日京大で地区委員会を開いたが、それぞれの検討の成果を持ちより、8月27日東大で第2回委員会を開催、以上の3つの問題点について、検討の成果を報告、討論を行なった。ここで得られた成果を、さらにそれぞれ深め、10月1日の国立大学図書館協議会総会で報告、討論を行なうことになっている。

## ニ ュ ー ス

### ソ連科学アカデミー図書館員ブラトフ氏との懇談会

さる7月30日、ソ連図書ならびに日ソ文献交流に関する懇談会が、ソ連科学アカデミー図書館東洋部長ブラトフ氏を迎えて、本館会議室でひらかれた。

その中で同氏は、ソ連の図書館はレーニンにより抜本的な改革がなされ、蔵書2,500万冊のレーニン図書館をはじめ、大規模な図書館が数多くあり、地域センターを中心にして相互協力がよく行なわれていると語った。またさらに、ソ連では図書館職員の地位はかなり高く、目録規則も統一されたものがあるが、図書館の機械化についてはむつかしい問題もあるとのべた。

### 附属図書館で「プログラミング研修会」ひらく

現在一部の国立大学図書館では、コンピューター導入のため、要員研修や一部業務の機械化に着手しているが、本館においても門田事務官を講師として関係各掛と一部部局から計9名が参加して、8月中旬より、“フォートランによる文字情報の処理”をテーマに上記研修